

FM/AMステレオチューナー

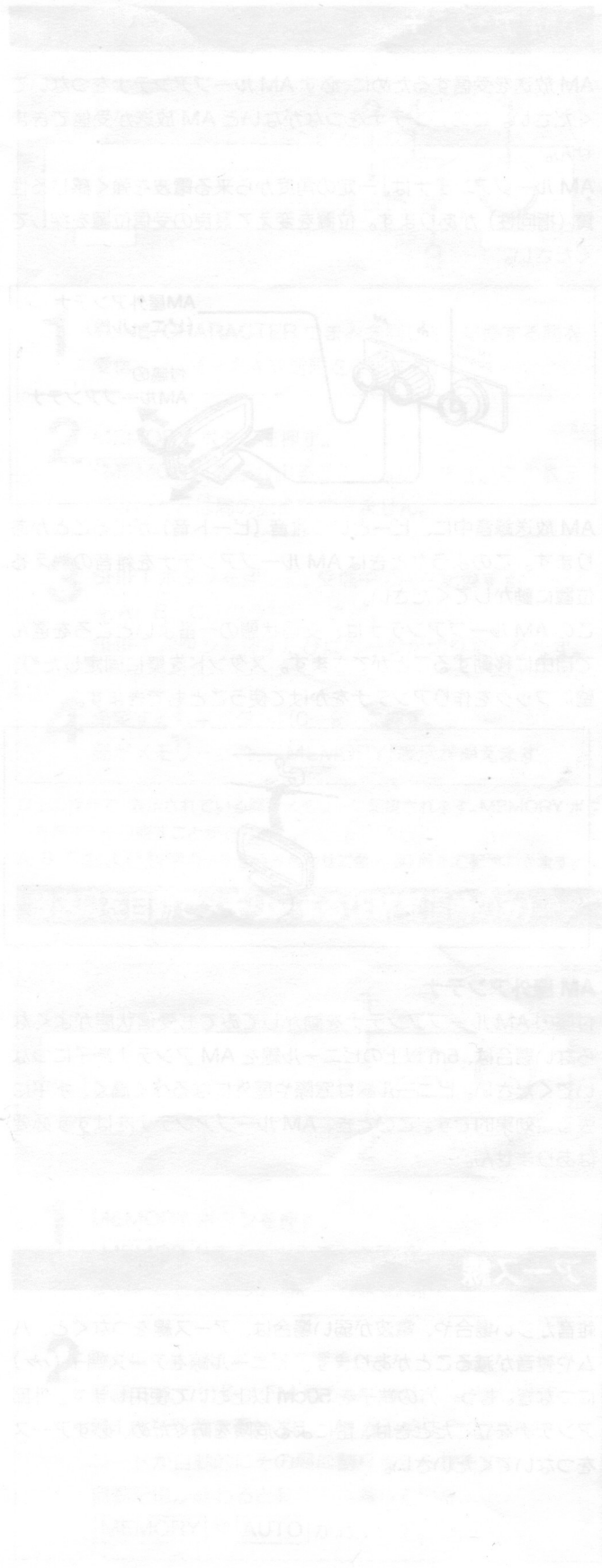
ST-S500

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。
お使いになる前に、この取扱説明書をお読みください。
お読みになったあとは、後日お役に立つこともありますので、
必ず保存してください。

目次

1	BAND (FM/AM) の選択
2	TUNING PRESET (メモリー) の設定
3	TUNE MODE (オートチューニング) の設定
4	TUNING CHARACTER (チューニングカーブ) の設定



はじめに

AM ステレオについて

本機では AM ステレオ放送を受信して楽しむことができます。AM ステレオ放送は規格上、既存のモノラル AM 放送との両立性を維持するためにその帯域が 7.5kHz から 10kHz に制限されます。具体的なステレオ化の方式は、ステレオ両チャンネルの和 (R+L) 信号と、ステレオ両チャンネルの差 (R-L) 信号を (R+L) から 90 度だけ位相をずらせた上、(R+L) に重ね合わせ、AM 変調した信号が放送局から送られてきます。両信号を運ぶための

搬送波の帯域は 7.5kHz から 10kHz なので、既存のモノラル AM 放送と比較すると臨場感のある音楽や野球実況を楽しめるとはいえ、FM 放送のような 15kHz までの伸びのある音域まで放送局から送出することは不可能です。したがって、AM ステレオ受信時の再生特性も局から送られて来る帯域によって制限されます。

使用上のご注意

電源について

家庭用電源コンセント (AC100V) につないでご使用ください。本機は、国内専用ですので海外ではご使用になれません。

電源コードについて

電源コードを無理に曲げたり、上に重いものをのせたりしないでください。コードに傷がついて火災や感電の原因になります。傷がついたコードは使わないでください。

電源コードを抜くときは、コードを引っ張らずに、かならずプラグをもって抜いてください。

留守をするときは

ご旅行などで長い間ご使用にならないときは、かならず電源コードをコンセントから抜いてください。

感電を防ぐために

キャビネットは、絶対にはずさないでください。内部に手を触れると感電することがあり危険です。

アースするには

絶対にガス管にはつながないでください。ガスに引火して爆発するおそれがあります。

雷が鳴りだしたら

屋外アンテナを使用中に雷が鳴りだしたら、早めに電源コードをコンセントから抜いてください。このとき、アンテナ線には絶対に触れないでください。

異物について

内部に液体をこぼしたり、燃えやすいものや、金属類を落さないでください。そのまま使用すると火災や感電、故障、事故の原因となります。

お手入れ

キャビネットおよびパネル面のよこれは、中性洗剤溶液を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナー、ベンジン、アル

コールなどは表面の仕上げをいためますので、使わないでください。

設置について

よりよい音質を得るためにも、チューナーなどのオーディオ機器は、以下のような場所をさけ、できるだけしっかりした台などの上に設置してください。

- 振動の影響を受けやすい所
- 湿気の多い所、風通しの悪い所
- ほこりの多い所
- 直射日光のあたる所、湿度の高い所
- 極端に寒い所

またチューナーは、雑音の原因となる冷蔵庫や蛍光灯から離して置き、ヘヤードライヤーや電気カミソリなども使用しないでください。

テレビとチューナーはできるだけ離して設置してください。

チューナーをテレビの近くに置いた場合には、AM 放送の受信ができないなどの障害が起こることがあります。



ステレオを聴くときのエチケット

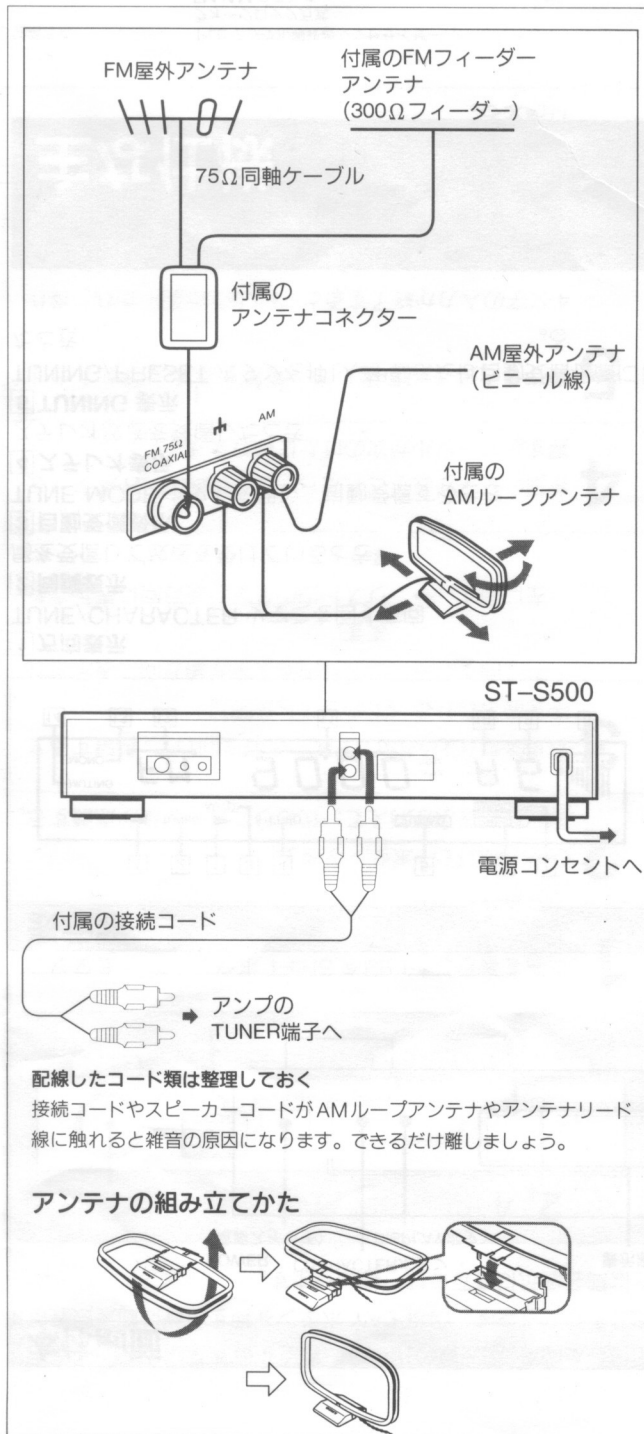
ステレオで音楽をお楽しみになるときは、となり近所に迷惑がかからないような音量でお聞かせください。特に夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

接続する前に

- 電源スイッチを必ず切ってから接続してください。
- 接続コードの赤いプラグは R(右)チャンネルへ、白いプラグは L(左)チャンネルへ接続します。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因になります。

接続図



FM アンテナ

音質の良い FM 放送を楽しむために、受信地の条件にあった専用外部アンテナを立てましょう。

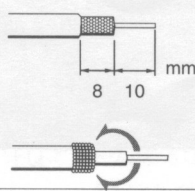
付属の FM フィーダーアンテナは、FM 外部アンテナを立てるまでの間、一時的にお使いいただくためのものです。

75Ω 同軸ケーブル

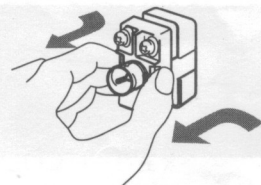
同軸ケーブルを使うと、雑音の影響を受けにくくなります。同軸ケーブルは太さにより数種類ありますが、3C-2V が適当です。

付属のアンテナコネクターのつなぎかた

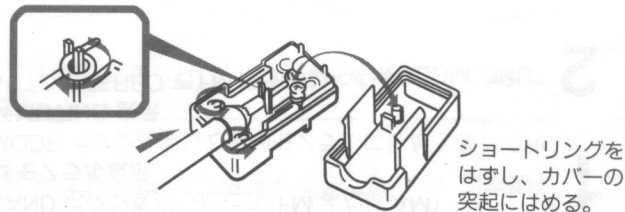
①ケーブルの先端を処理する。



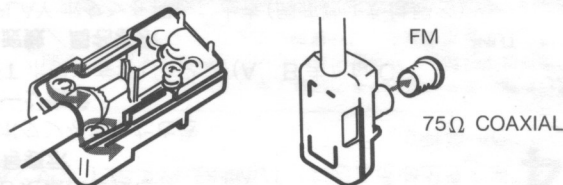
②カバーをはずす。



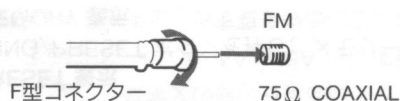
③ねじをゆるめ、心線を根元まで差し込んで巻きつける。



④ねじをしめ、カバーをはめて FM アンテナ端子へつなぐ。



市販の F 型コネクターを使ってつなぐには

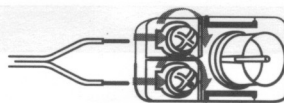


300Ω フィーダー

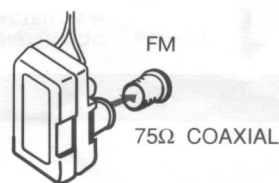
フィーダーは周囲の雑音の影響を受けやすいので、引き回しには十分な注意が必要です。また、あまり長くするとフィーダー自体がアンテナとなって、不要な電波を拾ってしまうので、できるだけ短くしましょう。

付属のアンテナコネクターのつなぎかた

①先端を巻きつけて、しっかりしめる。



② FM アンテナ端子へつなぐ。

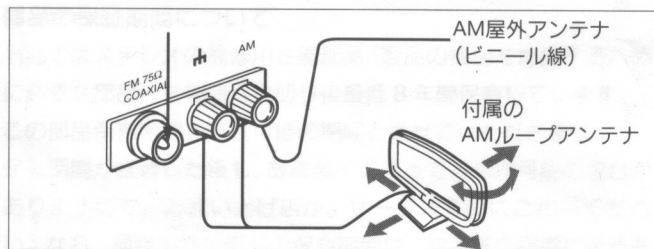


接続

AM アンテナ

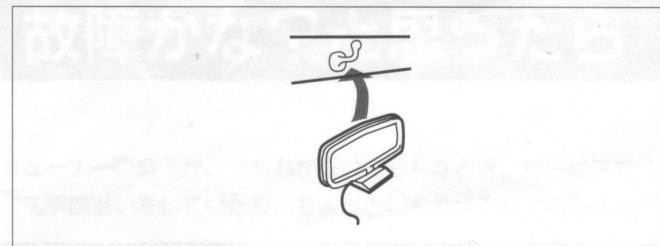
AM 放送を受信するために、必ず AM ループアンテナをつないでください。このアンテナをつながないと AM 放送が受信できません。

AM ループアンテナは、一定の角度から来る電波を強く感じる性質（指向性）があります。位置を変えて最良の受信位置を探してください。



AM 放送録音中に、ビーという雑音（ビート音）が出ることがあります。このようなときは AM ループアンテナを雑音の消える位置に動かしてください。

この AM ループアンテナは、受信状態の一番よいところを選んで自由に移動することができます。スタンドを壁に固定したり、壁にフックを作りアンテナをかけて使うこともできます。



AM 屋外アンテナ

付属の AM ループアンテナを動かしてみても受信状態がよくなる場合は、5m 以上のビニール線を AM アンテナ端子につないでください。ビニール線は窓際や屋外になるべく高く、水平に張ると効果的です。このとき、AM ループアンテナをはすす必要はありません。

アース線

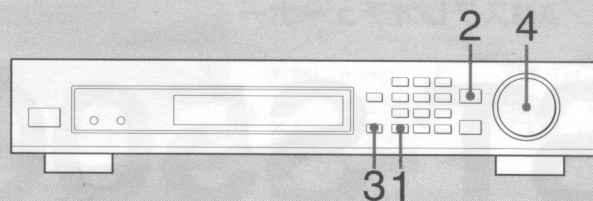
雑音が多い場合や、電波が弱い場合は、アース線をつなぐと、ハムや雑音が減ることがあります。ビニール線をアース端子（)につなぎ、もう一方の端子を 50cm 以上巻いて使用します。外部アンテナを立てたときは、雷による危険を防ぐため、必ずアースをつないでください。

放送局を受信する



自動受信

放送を行なっている局を探して自動的に止まります。



- 1** BAND ボタンを押してバンド（AM または FM）を選ぶ。
- 2** TUNING/PRESET ボタンを押して **TUNING** を表示させる。PRESET が表示されたら、もう一度 TUNING/PRESET ボタンを押す。
- 3** TUNE MODE ボタンを押して **AUTO** を表示をさせる。
- 4** TUNING/CHARACTER つまみを少し回し周波数が変わり始めたら、つまみから手を離す。
周波数の高い局を選択するには → 右に回す。
周波数の低い局を選択するには → 左に回す。
放送を受信すると自動的に止まります。次の局を受信するときは、もう一度回します。

手動受信

電波が弱く、希望の局で止まらないときは、手動受信します。

- 1** BAND ボタンを押してバンド（AM または FM）を選ぶ。
- 2** TUNING/PRESET ボタンを押して **TUNING** を表示させる。
- 3** TUNE MODE ボタンを押して **AUTO** の表示を消す。
- 4** TUNING/CHARACTER つまみを回して希望の局の周波数に合わせる。
周波数の高い局を選択するには → 右に回す。
周波数の低い局を選択するには → 左に回す。

放送局を受信する

ステレオとモノラルの切り換え

MODE ボタンを押すたびに、AUTO STEREO 状態か強制 MONO 状態に切り換わります。

FM バンドのとき

AUTO STEREO :

「MUTING」と表示されます。ステレオで FM 放送が聴けます。弱い電波の局はミュートがかかり聴けません。

強制 MONO :

「MONO」と表示されます。モノラルで FM 放送を聴けます。電波が弱く雑音が耳障りなときこの位置にすると聴きやすくなります。

AM バンドのとき

AUTO STEREO :

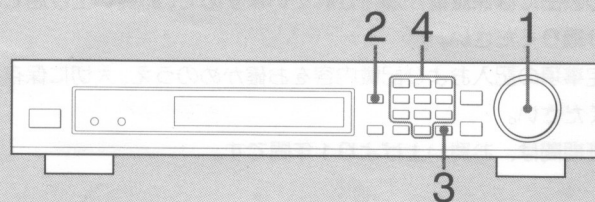
表示は出ません。ステレオ放送時にはステレオで、モノラル放送時にはモノラルで放送が楽しめます。

強制 MONO :

「MONO」と表示されます。モノラルで AM 放送が聴けます。電波が弱く耳障りなときにこの位置にすると聴きやすくなります。

放送局を記憶する(メモリー)

放送局を手動でメモリーする



1 TUNE/CHARACTER つまみを回して、記憶する局を受信する。(→ P.4 放送局を受信する)

2 MEMORY ボタンを押す。
MEMORY 表示が出ることを確認します。この表示がないときは局の記憶はできません。

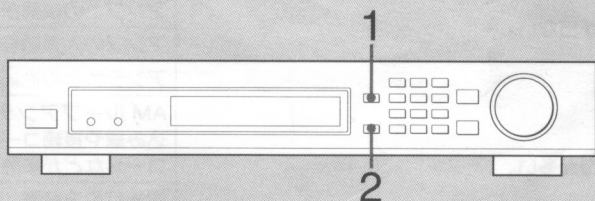
3 SHIFT ボタンを押して、受信中の局を記憶するページを A、B、C、のうちから選ぶ。
SHIFT ボタンを押すたびにページが切り変わります。

4 希望する数字ボタン (0~9) を押す。
局がメモリーされ、MEMORY 表示が消えます。

以上の操作で、表示されている局がメモリーに記憶されます。MEMORY ボタンを押すとやり直すことができます。

A、B、C、および数字 0~9 を組み合わせて最大 30 局まで記憶できます。

放送局を自動でメモリーする(FM 受信時のみ)



1 MEMORY ボタンを押す。
MEMORY 表示が出ることを確認します。この表示がないときは局の記憶はできません。

2 TUNE MODE ボタンを押す。
放送されている全 FM 局を探し出して記憶します。
FM 局を受信するたびに、A1 から始まる 2 文字のコードが自動的にその局に割り当てられます。
自動記憶が終わると動作中点滅していた MEMORY や AUTO が消えます。

放送局を受信する

メモリーした局を自動で受信する

- 1 TUNING/PRESET ボタンを押して **PRESET** を表示させる。
- 2 TUNE MODE ボタンを押して **AUTO** を表示させる。
- 3 TUNING/CHARACTER つまみを少しだけ回す。
メモリーしている現在の局の文字コードよりも上の局を探す(例: A5 → A6...) → 右に回す
メモリーしている現在の局の文字コードよりも下の局を探す(例: A5 → A4...) → 左に回す
放送を行なっている局を探すと、止まって 4 秒間受信して、メモリーしている次の局を探します。
- 4 操作を止めるときは、TUNING/PRESET ボタンをもう一度押す。

受信した局の電波が弱いとその局をスキップします。
この操作はプリセット番号が点滅しているときに可能です。点滅していないときは、TUNE ボタンをもう一度押してください。

メモリーした局を手動で受信する

- 1 TUNING/PRESET ボタンを押して **PRESET** を表示させる。
- 2 TUNE MODE ボタンを押して **AUTO** の表示を消す。
- 3 TUNING/CHARACTER つまみを回す。
メモリーしている現在の局の文字コードよりも上の局を探す(例: A5 → A6...) → 右に回す
メモリーしている現在の局の文字コードよりも下の局を探す(例: A5 → A4...) → 左に回す
つまみの回転に合わせて、メモリーしてある局が順に呼び出されて、対応するプリセット番号が表示されます。

メモリーした局を直接受信する

- 1 SHIFT ボタンを押して希望の放送局が記憶されているページを A, B または C の中から選ぶ。
- 2 希望のプリセット番号を押す。

メモリーできる内容

局のモード (AUTO STEREO/MONO) もいっしょに記憶されます。

新しい局を記憶すると

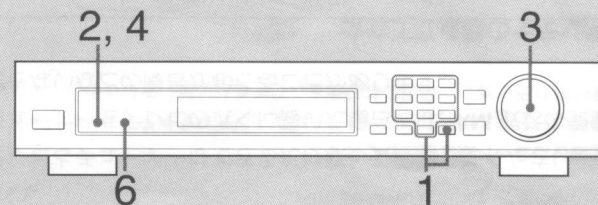
同じメモリーページの同じプリセット番号に記憶されていた前の放送局は消えます。

プリセット局の記憶の保存

電源プラグをコンセントから抜いても約 1 か月間保存されます。

局名を表示する

記憶した局を、周波数の代わりに希望する 4 文字の名前で表示することができます。DISPLAY ボタンを押すたびに周波数表示または局名表示に交互に切り換わります。

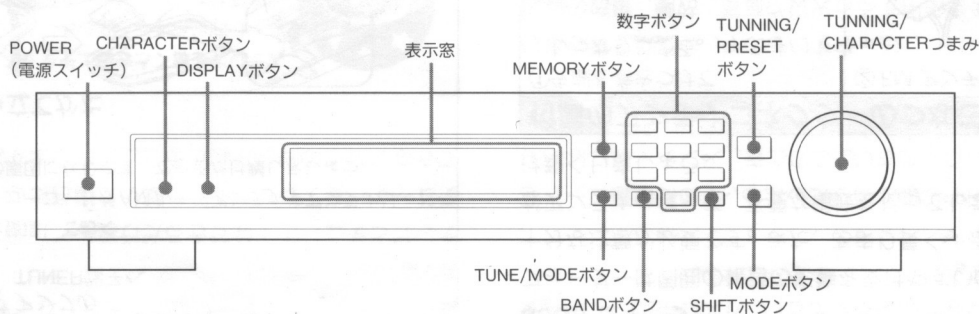


- 1 局名を表示したい局を **SHIFT** ボタンと数字ボタンで選ぶ。
- 2 **CHARACTER** ボタンを押す。
周波数の表示が消えて、代わりにカーソルが点滅する。
- 3 TUNING/CHARACTER つまみを回して、希望する文字を表示させる (下のリスト参照)。
右に回す → リスト内の文字が順方向に表示されます。
左に回す → リスト内の文字が逆方向に表示されます。
- 4 希望の文字が表示されたら、**CHARACTER** ボタンを押す。カーソルが次のけたに移ります。
- 5 操作 3 と 4 を繰り返して、希望する 4 文字を入力する。
4 文字の入力が終了すると **"FILE"** と表示され、操作が完了します。まちがえたときは、**CHARACTER** ボタンを押して、操作 2 からやり直してください。
- 6 **DISPLAY** ボタンを押して周波数表示と局名表示を切り換える。

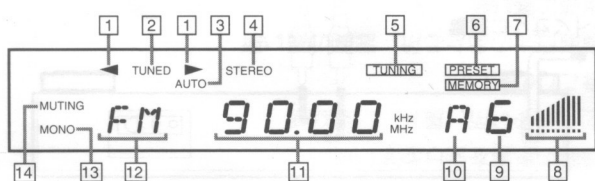
(スペース), A, B, C, D, E, F, G, H, I, J, K,
L, M, N, O, P, Q, R, S, T, U, V, W, X, Y,
Z, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 0, -,
., /, \, ' , > , < , ,

各部の名称

本体前面



表示窓



1 方向表示

TUNE/CHARACTER ツマミを回す方向

2 同調表示

局を受信して放送を受けているとき

3 自動受信表示

TUNE MODE ボタンを押し、自動受信するとき

4 ステレオ表示

ステレオ放送を受信したとき

5 TUNING 表示

TUNING/PRESET ボタンを押し、手動または自動受信状態にしたとき

6 PRESET 表示

TUNING/PRESET ボタンを押し、メモリー局を受信するとき

7 MEMORY 表示

MEMORY ボタンを押し、局を記憶させるとき

8 シグナルインジケータ

受信した電波の強さ

9 番号表示

番号ボタンを押したとき

10 ページ表示

SHIFT ボタンを押したとき (A、B または C)

11 周波数 / 局名表示

DISPLAY ボタンを押したとき (周波数または局名)

12 バンド表示

BAND ボタンを押したとき (FM または AM)

13 モノラル表示

MODE ボタンを押して強制モノラルにしたとき

14 MUTING 表示

AUTO STEREO で FM を受信したとき

主な仕様

回路方式

PLL デジタル周波数シンセサイザー
クォーツロック方式
FM/AM ステレオ
FM/AM スーパーヘテロダイナチューナー

FM チューナー部

受信周波数
中間周波数
S/N
感度

76.0~90.0MHz
10.7MHz
80dB (モノ)、75dB (ステレオ)

		新 IHF	IHF
S/N	モノ	22.1dBf	7μV
50dB 感度	ステレオ	42.1dBf	70μV
実用感度		19.5dBf	5μV

高周波ひずみ率
ステレオ分離度
(1kHz)
実効選択度
イメージ妨害比
出力

0.3% (モノ)、0.5% (ステレオ)
40dB
65dB (400kHz)
70dB
750mV、470Ω (75kHz、DEV)

AM チューナー部

受信周波数
中間周波数
感度

531kHz~1,602kHz
450kHz

感度

300μV/m (AM ループアンテナ使用時、MONO)
500μV/m (AM ループアンテナ使用時、STEREO)
54dB (MONO) 48dB (STEREO)
0.5% (400Hz、MONO) 1% (400Hz、STEREO)
32dB (9kHz)

S/N

高周波ひずみ率
選択度

電源部・その他

電源
消費電力
最大外形寸法
質量
付属品

AC100V、50/60Hz

8W

430×85×295mm (幅/高さ/奥行き)

2.8kg

AM ループアンテナ (1)

FM フィーダーアンテナ (1)

アンテナコネクター (75/300Ω F 型) (1)

接続コード (1)

取扱説明書 (1)、保証書 (1)

サービス窓口・ご相談窓口のご案内 (1)

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げ店でお受け取りください。

所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

保証期間は、お買い上げより1年間です。

部品の保証期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後最低8年間保有しています。

この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。

保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。なお、補修用性能部品の保有期間は、通産省の指導によるものです。

アフターサービス

調子が悪いときは
まず確認を

この説明書をもう一度ご覧になって
お調べください。

それでも具合の悪い
ときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付「サービス窓口、ご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の
修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型式：ST-S500 ●故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日

故障かな？と思ったら

チューナーの調子がどうもおかしい—そんなとき、サービス窓口にご相談になる前にもう一度チェックしてみましょう。案外、簡単なミスや勘違いをしていたり、ちょっとしたお手入れで直ることが多いものです。

症状	原因	処置
音が出ない。	アンプとの接続が悪い	アンプとの接続を確かめる。
	アンプの入力切り替えが間違っている。	アンプの入力切り替えを TUNER にする。
雑音が多い。	アンテナとの接続がフィーダー線である。	同軸ケーブルに変えてみる。
	AM ループアンテナに FM のアンテナを引き込み線や接続コード、電源コード、スピーカーコードなどが接触している。	コード類を AM アンテナから離す。
	蛍光灯や冷蔵庫、テレビ、トランシーバー、アマチュア無線機などの雑音源をそばで使っている。	雑音源と、チューナーやアンテナのリード線を離す。
メモリーしている局を呼び出しても受信ができない。	正しくメモリーされていない。	正しく受信をして記憶させる。
表示窓に正しい表示が出ない	内蔵のマイクロコンピューターがうまく機能していない。	電源を切る。数字ボタンの9と0を押しながら、POWER スイッチを押して電源を入れる。 (ただし、これで本体内のマイコンがリセットされ、初期状態に戻るので、メモリーやプログラムした放送局も消去される)

ソニー株式会社 〒141 東京都品川区北品川6-7-35

お問い合わせはお客でご相談センターへ

●東京 (03) 5448-3311 ●名古屋 (052) 232-2611 ●大阪 (06) 251-5111

Printed in Japan

異常や不具合をが起きたら

万一、異常や不具合が起きたとき、異物が中に入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードを必ずコンセントから抜いて、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご連絡ください。